

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373100835		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	グループホーム やすらぎの里にしき		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西鳥越141		
自己評価作成日	令和7年1月24日	評価結果市町村受理日	令和7年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の個別ケアを実施しており、現在はご利用者も穏やかに生活を送られている。毎日の体を動かす体操・レクリエーションの他、月のイベントで個別での誕生日会や行事食等対応している。職員も個々の能力を高めるため、積極的に研修や試験を受講して職員のレベル向上を行っている。

ケア目標である。「笑顔が絶えない心地よいホーム」に向け、入居者・ご家族・職員お互いを尊重し感謝する気持ちを忘れずケアを実施し、面会制限も解除しご家族も気軽に遊びに来れる施設づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して25年というホームでは、この一年入居者の入れ替りもなり、ケア目標とする“笑顔が絶えない心地よいホーム”の実現に向け意識を統一して臨み、午前中は作業療法、午後はレクリエーションと試行錯誤しながらの支援が体力低下も無く、皆で和気藹々とした日常として表われている。職員は思いこみの無いケアを心掛け、入居者をよく見て、良く観察して、委員会活動や計画性を持った研修等ブラッシュアップに努め、入居者や家族の声を常に念頭に置き、尊重と尊厳の念を持って、心豊かに暮らしていけるよう支援する等志向を高めたホームである。地域との関係もコロナ禍以前に戻り、グラウンド大会への協賛やキャラバンメイト・徘徊声かけ模擬訓練等に参画しながら認知症ケア推進に努めており、今後も地域福祉に寄与されることと大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念、介護目標を各棟の玄関・ステーションに掲示し理念を共有して実践に繋げている。	法人としての運営方針、ケア理念及び介護目標をもとに、掲示により意識を持ってケアに当っている。この1年入居者の入れ替りが多い中で、レクリエーションに工夫を凝らしながら笑顔ある日常とする等ケア目標である“笑顔の絶えない心地よいホーム”を実践している。	各棟会議の中で、業務やケアカンファレンスとして集中した話し合いが行なわれており、理念を振り返る機会も検討いただきたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域方々との交流が盛んとは言えないが、町主催のイベントの参加や地域の方への認知症声掛け見守り訓練への参加・施設主催のグラウンドゴルフでは職員も一緒に参加し交流を行っている。	静かな地域の中にあるホームでは民家も少ない状況の中で、ふるさと祭り等地域の行事に参加し啓発を図るとともに、例年町主催のグラウンドゴルフ大会に協賛し、今年度は住民との交流する機会として職員も競技へ参加している。入居者も地域の中での買い物や介護相談員の訪問時間をレクリエーションの時間へと変更することで交流に深まりを見せている。管理者は公民館での徘徊声かけ訓練の説明やキャラバンメイトとして小学生と交流する等地域に出ながら認知症ケア啓発に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の公民館で認知症の声掛け見守り訓練での説明会や地域の小学校に訪問し小学生に対して認知症の説明会等を実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催し、施設運営の報告や意見の交換を実施している外部に向けサービス内容を報告しており、虐待や身体拘束の防止に繋げている。	定期的に行う運営推進会議開催では活動や事故・ヒヤリハット、職員の異動や全入居者の状況等をまとめた報告等運営や入居者の現状を開示することで虐待等の防止に反映させるとしている。参加委員からの質問等は少ないとのことではあるが感染対策や感染時の面会及び面会時間の確認等が挙げられている。	運営推進会議は行政・社協・地域包括支援センター、分館代表・民生委員・家族代表及び入居者代表と充実した構成メンバーで開催されている。この中での質疑応答等議事録として残すことで次回に繋がることと期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と電話やメール、または訪問し連絡を取り合っている。施設の状況や内容なども報告し改善ができるように連携を図っている。	運営推進会議の中で実地指導時の報告を受けた他、町開催の認知症ケアや集団指導等の会議や、主任ケアマネ会議等参加している。行政の担当とは電話や足を運びながら意見交換を行い、地域包括支援センター主催のキャラメイトとして参加する等相互の協力関係を築いている。また、大規模改修はハード面での改善として入居者の自立支援に生かされ、町が派遣する介護相談員の訪問時間の変更により入居者との交流する機会に繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会も2ヶ月に一度開催し、職員勉強会でも定期的に取り上げ周知徹底を行っている。現状を把握する為にアンケート調査も実施した。	身体拘束等適正化委員会及び虐待防止委員会を2ヶ月毎に開催し、現状把握に努めている。ホーム独自のアンケートにより自分で判断困難な方や、スピーチロック等を見たり聞いたりしていないか等を収集しケアに反映させている。動画視聴等年間計画を立てながら研修を行なっている。転倒防止として人感センサーを使用する場合には家族の了承のもとプランに組み入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会も2ヶ月に一度開催し、職員勉強会でも定期的に取り上げ周知徹底を行っている。現状を把握する為にアンケートも実施した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見人制度の研修に参加しており対策はしているが、現在、対応は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、ご家族へ書面や対面で説明を行い、以降を確認したうえで、承認サインに押印をいただいている。又、契約時には身元保証人など基本情報、本人生活状況など確認し支障がないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設での生活状況などは広報紙や面会時に説明を行い、ご家族や入居者より意見を確認している。又、運営推進会議で施設の状況を説明したり、介護相談員の訪問時に意見を確認し反映できるように対応している。	入居者との日々の関わりや会話の中で要望等の聞き取りや介護相談員を介した情報等もケアサービスに反映させるとしている。家族には訪問時や電話等により意向等を聞き取りしているが、“お世話になっています”が多いようである。家族の中には遠方からの訪問もあり、面会時には状況を詳細に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や各棟会議、個別でも面談を実施し、業務や個人の相談を受けて、受けた内容を主任会議、各棟会議に守秘義務を考慮し反映している。	法人代表は2週間毎に現状把握に訪問されている。職員研修と職員の意見を聞き取りし話し合いを行なっている。研修の於ける質問や職員の提案が職員旅行を企画するきっかけになり3施設合同の計画が進行している。職員の考え方の違いもあるとして業務内容等施設としての方針を話し合い、ケア統一等を図っている。主任会議として各棟1名と管理者を交えた話し合い、個人面談等職員の意見や出す機会が多く、管理者を中心にチームワークの良い関係性が構築されている。ハラスメント方針を掲げ、働きやすい環境としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境整備は実施しており、ハード面での職場環境の構築は実施している。徐々にではあるが、改善できている。又、給与水準も年に1度確認を行い、引き上げを行い各自が向上心を持って働けるように実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職場内での研修会を実施している。又、業務中でのOJTも実施しており、働きながら知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉・球磨グループホーム連絡協議会の研修会に参加している。又、熊本県地域密着型の協会に入りネットワークづくりや勉強会を受けサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の要望や主訴を確認し入居前の生活にできるだけ、近づけるように実施している。又、本人の日常生活動作や意向を確認し入居者の対応方法や生活環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に十分な説明を行い、ご家族の不安や困りごとを確認している。入居後も電話連や広報誌にて施設での生活状況の説明や面会時にも生活状況の説明を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・ご家族の主訴を伺い、必要としている支援を事前に確認している。また、施設入居後も生活状況を確認しながら支援の方向性を本人・ご家族へ確認しながら実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も一緒に過ごす時間が長く家族のような関係性を築いているが、馴れ合いの関係にならないよう注意し尊厳に配慮している。また少しでも長く維持できるよう出来ることは行って頂き自信に繋がるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とも連絡を密にしコミュニケーションを図っている。面会時には日頃のエピソードや状態などを伝え、またご家族の要望にも応える事ができるよう職員間の情報共有を行っている。 馴染みある家具を運んだり、不安な時は面会依頼や電話をかけるなど協力を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族との面会の場を設け、外泊や外出(買い物や墓参り、自宅への同行、法事、食事)などご家族の希望や本人様の思いに添うよう努めている。知人や近所の方が散歩のついでに面会に来られる事もある。	入居者の自宅の近所からの訪問や法事や墓参に職員が同行した帰りに家族の協力により自宅に立ち寄ったり、電話を持参し家族に連絡をする入居者、家族との外食や、正月には自宅に帰る等馴染みの関係を継続して支援している。入居者の得意分野として干し柿作りや今から大学に行こうと思ってと計算問題に取り組む入居者、運動会や敬老会、鏡開きと人や場所のみならず四季折々の楽しみ事等支援している。郵便局や銀行、役場等家族と待ち合わせる等社会性を継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人の時間を尊重しつつ、行事やレクレーションなどみんなでの参加を促し、家族のような居心地の良い関係性を築くよう努めている。一人一人の性格や他の方との関係性も把握し席順等も考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所後(契約終了)にも、ご家族から介護保険や健康状態など心配ごとがあれば気軽に連絡していただくように説明を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向や要望を普段の会話な中からも汲み取り、職員間で情報共有、記録しケアプランに反映させている。話しやすい関係作りに努めている。	職員は日々のケアでの観察し、入居者同士や職員との会話を記録し、その中から思いなどを把握している。意思疎通の良い入居者には直接聞き取りしたり、選択肢を投げかける等本人本位になるよう努めている。認知症状の進行を自覚し「分からなくなってきた」との入居者の言葉に職員が寄り添うと共に観察をしながらケアに繋げる等入居者と良く会話しながら思い等を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴やエピソードを聞き取り、基本情報やアセスメントを基にサービス利用に活かしている。日々の記録は支援経過として作成し状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の性格や過ごし方、心身状態に合わせた個別ケアを行っている。観察を重視しささいな変化も見逃さないよう記録、情報共有し安心して過ごせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向や家族の要望、職員の日々の関りの様々な気付きの中から介護計画に反映させている。	本人及び家族の意向を把握し、課題整理統括表により把握したニーズに基づき、ADLの維持や不安無く過ごしたいとの思いを職員のケアに直結できるよう、職員および入居者との顔なじみの関係を深め家族の様な安心感のある信頼関係の構築、及び活動の中で見当識を高める内容等具体性のあるプランを作成している。担当者会議で本人・家族の要望等を検討し、各専門職の気づき等を踏まえて検討している。また、状態変化による見直し等現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	しっかりと観察し、少しの変化を見逃すことなく記録、情報共有し様々な角度からアプローチしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や専門医、訪問看護や訪問リハビリなど必要に応じて専門職と協力体制を取りながら心身ともに元気で過ごせるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の外れに位置し周辺の民家も少ない状況であるが消防団や役場、民生委員、近隣住民、他地区町民とも関係性を築き相互に支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明、契約を結び、必要に応じ他科受診も行っている。毎月の往診以外にも連絡を密にし協力体制を取っている。	入居時にかかりつけ医に関する説明を行ない、現在月1回の往診とホームが契約している訪問看護事業所による支援が行われている。何か異常などがあれば医師に紹介状を依頼し、専門医受診に繋げている。他科受診は基本的にホームで対応しているが、難しい場合は家族へ依頼し、結果の報告を受けている。歯科については必要時に医院による送迎にて治療を受けられており、ホームでは毎食後の歯磨きや夜間の義歯洗浄、個々に応じた口腔ケアに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、訪問リハビリの事業所と契約している。毎週の訪問以外にも都度報告し、24時間オンコール体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先のソーシャルワーカーと連絡を取り状態確認、退院時の調整を行っている。施設での受け入れが可能な状態の場合は、退院前のカンファレンス等に参加し施設職員への情報共有にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合や緊急時の対応などご家族・本人も含め書面での確認を行っている。又、重度化した場合は、特別養護老人ホームとも連携を行いその方らしい生活を送れるように実施している。	入居時に重度化に関する指針の説明を行ない、看取りについては現在、取り組んでいない事を伝え同意を得ている。家族からの要望は上がっているが、医療行為の点等からも現時点では難しく、出来得る所まで支援している。入居者の中には特養施設への申し込みをされている方もおられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員勉強会の中で急変時の対応を学び、急変時のマニュアルや連絡体制の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団や消防署との定期的な消防訓練を行っている。勉強会でも災害時マニュアルや連絡体制の確認を行っている。水害は地形的に可能性が低いが同系列の施設の受け入れ、地震の際は園庭に避難することとしている。	災害対策には消防署、消防団の参加協力を得ながら定期的に消防訓練を実施しており、夜間の搬送や野外消火栓を使った訓練等内容も工夫しながら取り組み、広報誌の中でも訓練の様子が紹介している。自然災害を想定した机上訓練を行ない、BCPは策定後各棟に設置している。現在、災害時非常発電装置助成金を申請中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に個人情報の保護についての同意書を交わし、職員も秘密保持誓約書、個人情報に関する同意書を取り交わしている。プライバシーや自尊心に配慮した関わりを行っている。	笑顔の絶えない心地よいホームとなるよう、ホーム内の環境整備や入居者個々を尊重した支援に努めている。排泄や入浴支援時は特にプライバシーに配慮しており、言葉かけも方言を使用しながらも馴れ合いにならないようにしている。個人情報の保護に関しては家族等と同意書を交わし、職員の守秘義務についても研修による共有や書面で同意を交わしている。整容や身だしなみは本人の気持ちに添った支援に努めており、髪のカットは訪問理容で対応している。カットの後「良かった。髪切ってもらってもどうなった(可愛らしく)だろうか」と嬉しさを言葉にされる方もおられるようである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が可能な入居者は要望等をその都度確認をしている。意思疎通が難しい方は表情やこれまでの生活歴などを考慮しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを実施しているため、入居者が一緒に、一斉にという支援は極力実施していない。レクリエーション時も無理強いせず、参加したい方のみ実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や起床時の身だしなみなどは実施しており、職員には自分に置き換えて考えるようにと指導を行っている。その方らしいおしゃれとまでは実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注しているため、毎食作ことは実施していないが、誕生会やイベント行事の際にできることを一緒に行っている。又、季節に応じ筍の皮むきや干し柿作りなどを一緒に作業している。	主菜・副菜等は外注されたものを使用しており、一口大やキザミなど個々の嚥下力に応じて提供し、苦手な食材があれば代替え食を準備している。また、誕生祝いでは手作りケーキなどを用意している。外注食により入居者が普段の調理に関わることは難しいが、お茶やおしぼりを配ったり、お盆を拭きあげるなどできる事に関わってもらっている。また、竹の子の皮むきや干し柿づくりなど入居者にとって懐かしく季節の行事として取り組まれている。	広報紙の中で入居者が慣れた手つきで干し柿づくりで渋柿の皮むきや紐編みの様子が紹介されている。今後も食の楽しみに繋がるような入居者の出番に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者ごとに主食や副食の量を調整しており、毎食後とやおやつ時でも食事量、水分量の確認を行っている。又、食事形態もその方の状態に応じて提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施しており、夜間は義歯の洗浄も行っている。ご利用者に応じて歯磨き粉や洗浄液、歯ブラシの形状、歯間ブラシ、口腔ティッシュを使い分けており、必要時には歯科受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を基本とし夜間はトイレ誘導、ポータブルトイレを実施している。個別の排尿間隔や排せつの状態を把握し、排泄用品を使い分けている。夜間不眠につながる恐れがある方は無理強いせずオムツを対応したりその方に合った支援を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間はトイレへの誘導やポータブルトイレの使用を支援する他、安眠を重視しリハビリパンツにパットの併用等個々に応じて支援している。自然排便に繋がるよう運動や水分摂取にも十分配慮しており、飲み物もお茶の他ココア、牛乳も好みに応じて温・冷で準備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を観察している。排便を促すために運動の実施、水分量の促しを行っている。きなこ牛乳やミルクココア等を飲み物にも工夫をしている。排便困難時は主治医へ相談し内服の調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に応じて入浴支援を行っている。入浴日以外は足浴を実施するなど清潔保持に努めている。	入浴は月曜から土曜までの間で週2回、午後を中心に体調や個々の気分配慮し支援している。入浴日以外は足浴や清拭により清潔保持に努めており、特に皮膚疾患のある方には十分配慮しながら足浴の対応を行っている。入浴を拒否される場合には入浴の間隔が開かないように声かけに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は状態に応じて臥床をする時間を設けている。夜間は入居者事に排泄パターンに応じて設定しており夜間の安眠に繋げている。又、掻痒感がある方は就寝前に保湿や軟膏塗布するなど実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服役の用法、用量の薬情を確認できるように実施している。服薬時はトリプルチェックを行い誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力にあった役割(料理・洗濯物たたみ)や塗り絵・計算問題などの作業療法、カラオケ、読書、園芸、園庭での茶話会、合同でのイベント、行事などを行っている。全体での活動と個人での活動両方実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族からの要望があれば墓参りなどの支援を行っており、家族との外食、他施設への面会、郵便局や銀行、役場への送迎・付き添い等希望に沿った支援を実施している。	感染症への対応からまだ敷地内の散歩が主のようであり、季節に応じ樹木や草花の開花、鳥の鳴き声などを楽しまれている。中には家族の協力により他の施設への面会や外食、外泊をされた方もおられる。また、金融機関や行政手続きなどへの外出をホームによる送迎で支援されている。訪問当日は風の冷たさはあったものの、天候はよくお気に入りの人形を抱っこし、職員と庭先を散歩される入居者の姿も見られた。	法人で大型車両がこの春納車予定であり、活動範囲が広がっていくことと思われる。入居者の希望を取り入れながら外出を支援されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は少額であればお金を所持することにも対応している。入居者同士で所持のトラブルになりやすいため慎重に取り扱っている。又、職員間でも金額や保管場所など常に情報共有に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば取り次いでいる。定期的に入居者の生活状況も説明しておける。手紙や年賀状は入居者も喜ばれるため、居室にいつでも読まれるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室の定位置から見える桜や花壇、季節ごとの木々の変化を楽しむように実施している。施設が古民家風な作りでありどこか懐かしい雰囲気がある。リビングでも一人になれたり、他の入居者と談笑したりと空間作りを行っている。	洗面台や浴室、照明、天井など大規模改修が行われ、入居者の快適な生活に繋がっている。洗面台への改修は特に入居者自ら洗顔を出来るようになったり、職員にとってもスムーズな支援が出来好評である。各ユニットの職員が季節の掲示物や置物など工夫し、入居者の好みの歌や時代劇などユーチューブを活用し楽しみな日常に繋げている。リビングに限らず日向ぼっこが出来廊下など寛げる場所が確保されており、ソファに横になったり、作業療法や編み物など自由に過ごされる姿が広報誌で紹介されている。	様々な改修が行われており、特に入居者自身が洗面台を使用されている様子は広報誌等でも紹介されることで家族の安心にも繋がるものと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う入居者が談笑できるようスペースの提供や一人の時間を過ごしたい方は居室やリビング自席で過ごしてもらうなど個別に応じた対応を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への家具の持ち込みは自由としており、馴染みの物を持ってきていただくように依頼している。入居者にはこたつを持ち込まれている方もいる。ご家族も協力的で昔の写真を持参され居室に飾られている。	入居時に居室への持込みは新たに購入する必要はなく馴染みの品でよいことを説明している。居室入り口には自身で書かれた表札やホームで準備した暖簾が下げられている。居室内には塗り絵や習字の作品が掲示されていたり、テレビを持ち込みゆっくり見られる方もおられるようである。毎月の手紙を発送する中で衣替えの連絡をしているが、家族の状況等から押入れに年間を通して衣類・寝具を入れられた方もおられる。居室の移動は基本的に行われていないが、介助の必要性等から考慮し、直近でユニットの移動で対応されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望者には居室前に表札を作り、のれんを使い居室が分かりやすい工夫をしている。		